令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課

大事業	A1	６つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	ＫＰＩ	①健康寿命の延伸 ②健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合		目標値	①(男性)81.00歳(女性)86.00歳 ②70.0%
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療					
小事業	04	発達支援事業		目標年度	令和6年度			

インプット

事業実施の背景にある課題	美濃加茂市の小中学校では、集団適応が難しい子、学習内容の定着や文字の読み書きが苦手な子が増加している。また、通常学級にも発達障がいのある児童生徒が在籍している。個々の特性に適した支援方法を保護者や教員に周知し、確実に支援していく必要がある。
対　象	０歳～成人期の困り感を持つ児（者）とその保護者、またその関係機関（関係幼保小中高学校）
目　的	乳幼児期から児童学童期の相談支援体制の確立と乳幼児からの一貫した支援体制の確立
概　要	本事業は、フロム0歳プラン２の「学校が楽しい！」具現に向けて、特に困り感を持つ子どもたちとその保護者を支援するためのものである。 ◎９ヵ月～１０ヵ月あそびの教室（健康課事業への支援１回／月） ・発達支援対象児スクリーニング、育児支援（発達の確認と関わり方の教授） ◎公私立保育園公開保育参加（全クラス） ・発達支援対象児早期発見と支援内容検討、発達相談・巡回相談対象児の見守り ◎あじさい発達相談（随時） ・保護者対象の発達相談と学校との連携・支援内容の検討、保護者の障がい理解 ◎巡回発達相談（幼保１回／月　小中１回／学期） ・園や学校を対象とした相談事業(対象児の読み取り・支援方法の検討・見守り)

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,570	1,157	1,284	1,594	1,665
	決算額	900	563	1,164	1,374	1,307
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		1,085 / 0				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
①あじさい発達相談件数②巡回発達相談件数③夏季あじさい子育て相談人数④臨床心理士による知能検査件数の合計	目標値	250	250	250	250	250
	実績値	210	306	370	390	372

アウトカム

ＫＰＩ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
各相談事業での支援対象児スクリーニング人数と支援対象件数	目標値	250	250	250	250	250
	実績値	210	306	370	390	372

実績

実　績	・あじさい発達相談…全１００件 ・巡回発達相談…全１７５件 ・夏季あじさい子育て相談会…７２件 ・臨床心理士による知能検査…２５件 ・公開保育へ参加 ・相談窓口周知のためのあじさい発達相談リーフレットの配布・活用
効　果	困り感を解消するために、保護者や先生に話を聞き、実際の場（園・学校）での様子を見て、子どもの得意不得意や困っていることの要因を見つけ、適した支援方法を伝えることで、困り感の解消・減少につなげることができた。 個別の支援計画を作成し、次の学年、学校へ引き継ぐことで、生活の場が変わっても途切れのない一貫した支援を行うことができた。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	保健センターでの健診、幼保こども園や学校への定期的な相談、リーフレットやホームページでの発信から、相談窓口が周知され、相談件数が目標値を達成した。特に、年長児を対象とした夏季あじさい子育て相談会への申し込みが増加しており、小学校への就学に向けて心配をしている保護者が多いことが分かる。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	保護者からの相談、園や学校からの相談、健診からの相談など、相談を受けた子が支援対象児となっている。 当事業によって、困り感をもつ子どもたちを支援し自己肯定感の向上を狙うため、R7年度以降のKPIを変更する。
実績からR07年度の事業の方向性	今年度同様、保健センターでの健診、幼保こども園や学校への定期的な相談、リーフレットやホームページでの発信を続けていく。さらに、紙面での周知だけでなく学校配信メールでの発信を行うことで、困り感を一人で抱えている子ども、保護者、教員に相談窓口の周知を図る。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課			
大事業	A1	６つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02 事務局費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	ＫＰＩ	①健康寿命の延伸 ②健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合		目標値	①(男性)81.00歳(女性)86.00歳 ②70.0%	
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療						
小事業	05	教育支援事業		目標年度	令和6年度				

インプット

事業実施の背景にある課題	集団に適応できない、細かい作業がうまくできない、集中が続かない、学習の定着が難しいなど、支援が必要な児童生徒が増加している。学校の一斉指導の中だけでなく、一人一人の発達に合わせた学びの場の選択や個別での支援を行うために、支援学級・通級指導教室や必要な教材・教具を整備する必要がある。
対　象	・教育支援委員 ・市特別支援連携協議会員 ・市内の小中学校の特別支援学級、特別支援等通級教室
目　的	円滑な教育支援の実施や特別支援教育の充実
概　要	本事業は、フロム0歳プラン２の「学校が楽しい！」の具現に向けて、困り感を持つ子どもに対して、よりよい教育環境の下で適切な支援が受けられるよう、適正な判定を行い、学校生活・学習環境の充実を図るものである。 ・児童一人一人の障害の状況に応じた教育支援の実施 ・新設、増級する特別支援学級、特別支援通級教室への備品及び学習教材の購入 ・各特別支援学級、特別支援等通級教室への備品及び学習教材の追加購入

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	183	1,435	1,023	1,290	1,254
	決算額	83	1,384	1,018	1,255	1,081
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		1,120 / 0				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
教育支援委員会の開催（年3回） 判定部会の開催（年8回）	目標値	11	11	11	11	11
	実績値	11	11	11	11	11

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができるよう環境が整備された学級（クラス）	目標値	41	42	43	60	60
	実績値	41	42	44	55	54

実績

実　績	＜適正な就学と関係機関と連携した早期支援体制の整備＞ ・教育支援委員会・市特別支援連携協議会：年３回 ・判定部会：年８回 ・特別支援学級（増級）・通級指導教室（新規）への備品や教材の購入による環境整備 ＜医療的ケア体制の整備＞ ・医療的ケア運営協議会：年２回
効　果	・児童生徒の発達や特性に適した学びの場を考えることで、一人一人が落ち着いた生活を送り、力を発揮することができた。 ・新設・増級した特別支援学級に備品や教具を配置することで、支援が必要な児童生徒が学びやすい環境を整備することができた。 ・通級指導教室の支援器具や教具が充実したことで、児童生徒の適応力向上を促すことにつながった。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	教育支援員会等を計画的に開催することができた。 令和７年度からKPIを変更することに伴い活動指標を変更する。全教職員の特別支援教育の知識・理解の向上を図ることでKPI向上につなげる。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	通級指導教室（特別支援）を巡回指導型にしたことで、通級指導教室数が増加した。それに伴い、保護者の送迎負担が減るとともに、自校で指導を受けられることで生活の安定につなげた支援をすることができるようになった。なお、令和5年度からは目標値、実績値ともに、特別支援学級に加え、通級指導教室も計上している。 支援を必要とする児童生徒が就学・進学・就労の際に支援が途切れないよう、個別の支援計画・指導計画の作成と引継ぎの充実に努め、一貫した支援体制の確立を図るためR7以降のKPIを変更する。
実績からR07年度の事業の方向性	・教育支援委員会・市特別支援連携協議会・判定部会の開催を引き続き行い、一人一人の発達や特性に合わせた学びの場の充実について協議を継続していく。 ・医療的ケア運営協議会を開催し、学校での医療的ケアの支援体制を確立させていく。 ・個別の実態にあった支援ができる教材教具の購入や環境整備を進める。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課

大事業	B1	６つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	ＫＰＩ	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合		目標値	①500人 ②40.0%
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援					
小事業	06	科学のふしぎ解決学習推進事業		目標年度	令和6年度			

インプット

事業実施の背景にある課題	インターネットやAI等の普及により、必要な情報を容易に得られる世の中になっている。しかし、自ら解決しようとする探究心を育み、解決方法を考え、より発展的な学習や他領域への学びの意欲をつなぐためには、自然・科学分野での体験学習等の機会を充実させることが重要である。特に普段の授業では体験できない活動を通して、児童生徒の科学への興味・関心を高める必要がある。
対　象	各小中学校児童生徒、保護者
目　的	・普段、学校の授業では体験できない実験や専門家の話を聞き、児童生徒の科学への興味関心を高める。 ・自ら解決しようとする探究心を高め、解決方法を学ばせる。 ・より発展的な学習や他領域への学習へと学びの意欲をつなぐ。
概　要	本事業は、フロム0歳プラン２の「学校が楽しい！」の具現に向けて、自然・科学分野での体験学習等を意図的に行い、児童生徒が一層自然の不思議に興味・関心を持ち、生きる力の素地をつくるためのものである。 ・学校の授業では体験できない実験や専門家による講演会 ・校外での科学分野の体験活動

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,304	8,332	8,177	4,590	5,761
	決算額	3,472	6,182	7,505	4,508	5,730
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		40　/　30				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
事業を実施している小中学校数	目標値				11	11
	実績値				10	10

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
生活習慣アンケート「学校の授業は、楽しいですか」当てはまる、どちらかと言えば当てはまると答えた児童生徒の割合（%）	目標値				90	90
	実績値				87	88

実績

実　績	・小学校9校、中学校１校で本事業の補助金を利用した活動を実施した。各学校におけるサイエンス学習、サイエンスワールドでの体験学習等、充実した活動を展開することができた。 ・科学に特化した講師を招き、６つのブースと１つの自由参加ブースを設置し、１回２０分の科学実験や工作を５回実施した。各ブースの1回あたりの定員を6名で活動を行い、のべ１６１名が体験した。
効　果	学校の授業では味わうことができない科学実験や工作を通して、参加した児童生徒の科学に対する興味関心を高めることができたと考えられる。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	継続して参加する学校が多く、今年度は小学校９校、中学校１校の１０校で本事業の補助金を利用した活動が実施された。 学校の内外で科学に触れる機会を得ることができる本事業が、市内の学校に浸透してきたと考えられる。市内の全学校で実施されるよう、今後も継続して働きかけを行っていく。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	生活習慣アンケート「学校の授業は、楽しいですか」の項目において、当てはまる、どちらかと言えば当てはまると答えた児童生徒の割合が昨年度を上回り、８８%であった。学校の内外で、自然・科学分野での体験学習等の機会を充実させたことで、児童生徒が一層自然・科学技術に対する興味関心を高め、より発展的な学習や他領域への学習へと学びの意欲をもつことができたと考えられる。 R7年度からは、KPI指標について現在のものが取り組みの結果に合致しにくいもののため、変更する。
実績からR07年度の事業の方向性	自然・科学技術のふしぎや面白さを肌で感じることができるような体験活動を意図的に取り入れ、児童生徒の興味関心を高めることに重きを置いた取組を継続して実施する。 子ども達の身近な科学科学現象や、話題となる分野の講話や実験ができる専門家の情報を収集し、楽しく魅力的な体験活動の実施を目指す。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課

大事業	B1	６つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02 事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	ＫＰＩ	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合		目標値	①500人 ②40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援						
小事業	07	フロム０歳プラン推進事業		目標年度	令和6年度				

インプット

事業実施の背景にある課題	第２次美濃加茂市教育振興基本計画（フロム０歳プラン２）においては、３本柱「学校改革・改善」「ロングスパン教育（０歳から１８歳）」「面による指導」を大切にしている。学校においては、より特色ある学校づくりを行っていくことで、学校が楽しいと答えられる子を育成してくことを大切にしており、本事業は、その基盤づくりとなるものである。
対　象	全児童生徒
目　的	・フロム０歳プラン２における３本柱「学校改革・改善」「ロングスパン教育」「面による指導」の具現 ・「自己にきびしく、人にやさしい、心身ともにたくましい子ども」の育成
概　要	本事業は、フロム0歳プラン２の「学校が楽しい！」の具現に向けて、各学校がそれぞれ特色ある教育活動を推進することによって、学校教育の充実を図るものである。 ・Ｆ－０特色ある学校づくり補助金 ・学校教育の方針と重点の作成等

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	11,075	11,472	11,186	11,224	11,349
	決算額	10,490	11,299	11,129	11,057	11,190
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		50 / 50				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
本事業の補助金による活動実施率（対予算額：%）	目標値	100	100	100	100	100
	実績値	80	100	100	100	100

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
「特色ある学校づくり」の報告に対する教育委員評価B以上の率	目標値	100	100	100	100	100
	実績値	80	90	90	90	100

実績

実　績	・あじさい賞表彰（科学社会科作品、児童会活動等） ・特色ある学校づくり補助金交付 小中学校　11校で特色ある学校づくりを実施 （坪内逍遥の学習、学力向上の取組、一輪車活動　等） ・補助金額：11校で11,000,000円
効　果	各学校において、ふるさと教育や多文化共生・国際理解教育等、様々な教育資源を活用した特色ある教育活動を意図的・計画的に展開することができた。このことにより、学校教育のさらなる充実を図ることができ、第２次美濃加茂市教育振興基本計画（フロム０歳プラン２）に掲げるめざす人間像「自己にきびしく　人にやさしい　心身ともにたくましい子ども」の育成に寄与した。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	必要に応じて活動内容を見直しその一部を変更した学校もあるが、事業趣旨を踏まえた教育活動を展開することができた。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	年２回の報告会（中間報告会１１月、最終報告会２月）に加え、教育委員会訪問（１０月～１１月）を実施し、本事業補助金の執行状況を点検するとともに、活動展開にまつわるエピソードや定量的評価により教育活動の進捗状況を確認した。その過程を経て、教育委員会協議の中で、目標値達成を確認した。
実績からR07年度の事業の方向性	第３次教育振興基本計画に掲げるめざす人間像「自分が思い描く幸せな未来を創造していく子」の実現に向けて、令和７年度も引き続き、各学校における特色ある教育活動を改善充実していく。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課

大事業	B1	６つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	ＫＰＩ	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合		目標値	①500人 ②40.0%
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援					
小事業	08	学外講師派遣推進事業		目標年度	令和6年度			

インプット

事業実施の背景にある課題	各学校が特色のある学校づくりを実施するためには、地域の人材の協力は欠かせない。また、学校では指導しきれないことも、地域の専門家等を生かすことで、子ども達が地域の良さを知り、地域を学びながら成長していくことが学校教育の充実には必要不可欠と考える。
対　象	市内小中児童生徒
目　的	「開かれた学校」づくり、臨場感のある学習や活動のために外部の講師・指導者を派遣
概　要	本事業は、フロム0歳プラン２の３本柱の１つ「面による指導」を充実し、外部人材を十分に活用して学校教育の充実を図るものである。 ・学習や体験活動、部活動に対する、外部人材の教育力の活用

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,248	1,200	1,200	840	1,248
	決算額	843	992	1,121	818	767
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		30 / 100				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
学校教育活動への学外講師派遣率（対予算：%）	目標値	100	100	100	100	100
	実績値	70	83	89	99	86

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
学外講師による学習や活動の児童生徒の満足度（%）	目標値	95	95	95	95	95
	実績値	90	90	93	95	95

実績

実　績	小学校 ・米づくり指導 ・歯科学習指導 ・音楽・合唱指導 ・家庭科・ミシン指導 等で実施 中学校 ・楽器指導
効　果	学校・家庭・地域・社会がそれぞれの役割を果たしながら、手を携え、チームとしてこどもたちの学びを支える環境づくりを一層推進する必要がある。本事業によって、地域の人材等を講師として専門的な知識・技能・経験に触れることができる学びの場を意図的・計画的に創出することができた。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	日程の都合がつかず講師を派遣することができなかった学校もあるが、ほぼ当初の予定通り派遣することができた。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	各学校において、地域の人材を活用した教育課程を編成・実施することにより、学習活動に対する児童生徒の興味・関心が高揚した。また、「地域とともにある学校」づくりにも寄与している。 満足度が高かったとしても、実際に教員がその教育資源を日常的な教育活動に繋げていなければ長期的な改善に繋がらないため、R7年度以降の指標を変更する。
実績からR07年度の事業の方向性	各学校に対し、地域の人材を積極的に活用した教育課程の編成・実施を促すとともに、その実践事例を市内すべての学校で共有することにより、フロム０歳プランの基本理念である「面による指導」を強化し、教育のより一層の振興を図っていく。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課

大事業	B1	６つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	ＫＰＩ	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合		目標値	①500人 ②40.0%
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援					
小事業	09	英語教育推進事業		目標年度	令和6年度			

インプット

事業実施の背景にある課題	在留外国人、外国人児童生徒が年々増加している状況の下で、本市は多文化共生事業を推進しているが、小学校から異国の文化を理解し尊重する態度の育成すること、小学校及び中学校の英語教育の充実を図ると共に、児童生徒のコミュニケーション能力を高め、外国語の背景にある文化に対する理解を深めることが必要である。
対　象	市内小中学校児童生徒
目　的	・コミュニケーション能力を育成し、グローバルに活躍する健やかな人材の育成 ・英語や外国文化に対する興味関心の喚起 ・外国の文化や習慣等に積極的に触れようとする態度の育成 ・英語検定3級程度の生徒の割合が増加
概　要	本事業は、美濃加茂市教育振興基本計画「学校が楽しい！」具現に向けて、児童生徒が生き生きとコミュニケーションを図り、能力を高めるための事業である。 ・小学校の外国語及び外国語活動に伴う教材の整備 ・小学校５・６年生外国語におけるネイティブスピーカーによる英語指導 ・小学校外国語活動における英語活動等支援員による授業支援 ・中学校英語授業におけるネイティブスピーカーによる英語指導 ・中学校3年生における英検ＩＢＡの実施

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	22,058	21,560	21,470	20,512	19,790
	決算額	21,473	21,501	21,425	19,705	19,749
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		70 / 740				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
生徒が英語を好きといえる授業づくり（「英語が好き」と回答する生徒の割合%）	目標値				50	50
	実績値				54	47

アウトカム

ＫＰＩ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
英検ＩＢＡ３級程度の生徒の割合(%)	目標値	47	48	49	50	50
	実績値	49	36	52	56	42

実績

実　績	・中学校3年生における英語検定（英検IBA）を実施した英検3級程以上の生徒は約42%である。 ・EAS（英語活動等支援員）を5名任用し、兼務により、全小学校において英語活動等の授業を支援している。 ・MET（専任英語指導講師）を4名任用し、兼務により、全小中学校においてネイティブスピーカーによる英語指導を行った【委託】。
効　果	・外国語によるコミュニケーション能力の育成 ・外国語の背景にある文化に対する関心・理解

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	中学校での英語授業において、生徒の主体的な学びを促したり、知識の定着を図ったりする方法が、生徒の実態に即していなかったことが考えられる。 専門的な知識や豊富なアイデアを持つ専任英語教師の配置を高めれば、英語が好きという児童生徒が増え、主体的に取り組み学力の定着につながると考えるため。R7以降の活動指標を変更する。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	教科が好きという思いは、生徒の主体的な学びにつながり、学力の定着につながっている。そのため、令和５年度は英検ＩＢＡ３級程度の力をつけることができた。一方で、令和６年度は「英語が好き」の数値が低いことが影響していると考えられる。
実績からR07年度の事業の方向性	英語に対して意欲的に取り組むことが学力の向上につながる。そこで、「英語を好き」と回答できる生徒を増やしていくことが大切。EASとALTとの合同研修会や英語教育推進委員会等によって「生徒が英語を好きといえる授業づくり」を目指す。また、英語教諭を対象とした研修の機会を設けて、指導方法や教材の工夫改善など学ぶ機会を設けていく。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課

大事業	B1	６つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	03 教育センター費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	ＫＰＩ	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合		目標値	①500人 ②40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援						
小事業	10	教育相談・適応指導教室推進事業		目標年度	令和6年度				

インプット

事業実施の背景にある課題	コロナ禍以降、不登校児童生徒数は増加傾向であり、態様も複雑・多様化する傾向である。 不登校状態にある児童生徒およびその保護者に対する支援として、校内での支援や相談体制の充実が急務である。 また、校外教育支援センター「あじさい教室」および「あじさいフリースペース」のニーズが高まっている。
対　象	・不登校児童生徒及び学校での集団生活に不適応な児童生徒、保護者及び学校職員
目　的	・社会適応能力の育成、自己肯定感の高まり、学校復帰後の学校生活への適応および学力の向上 ・通室者が増加している適応指導教室（あじさい教室）の教育環境の向上
概　要	本事業は、フロム0歳プラン２「学校が楽しい！」具現に向けて、不登校児童生徒の学校復帰に向けた教育相談・適応指導の充実を図るものである。 ・学校での集団生活への不適応児童生徒に対する教育相談・適応指導 ・自主性、社会性を育む体験活動の実践 ・学習意欲を喚起する個の実態、状況に応じた学習支援

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	333	330	330	419	488
	決算額	309	232	272	348	392
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		1,794 / 798				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
不登校解消に向けた「あじさい教室およびフリースペース」通室を含む相談（見学含む）件数（人）	目標値				70	80
	実績値				81	97

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
「あじさい教室」通室を通して学校復帰（含む高校進学）した児童生徒の割合（%）	目標値	70	70	70	70	70
	実績値	53	53	56	58	53

実績

実　績	・保護者との懇談、関係学校の教育相談担当との情報共有を丁寧に行った。 ・３月末現在、中２学年までのあじさい教室通室児童生徒１３名のうち、学校復帰ができた児童生徒は４名。また、中３学年のあじさい教室通室生徒６名のうち、進学した生徒は６名（通信制高校５，専門校１）。 ・絵や音楽を楽しむ会、里山体験や遠足、農園での野菜作り、調理実習等の様々な体験活動を実施できた。 ・学習指導については、個別の状況に応じた学習支援を行った。
効　果	校外教育支援センターに通室することにより、学習支援や他者とのふれあいの機会を創出することができた。 学校への登校はできなくても、教育支援センターに通室することで、指導要録上出席扱いとすることができる。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	不登校の長期化や要因の多様化等に起因し、相談件数が増加していることが考えられる。 校外教育支援センターを新設し、安心できる居場所の拡充および相談活動の充実を推進したい。よってR7年度以降の指標を変更する。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	不登校状態に入った児童生徒の学校復帰は、不登校の要因や状態から考えて、簡単ではない。ただ、校外教育支援センターに通室することで、自己肯定感を高めたり、仲間とのかかわり力を高めたりできている様子が見られる。また、通信制高校が可茂地区内にも開校され、進路選択の幅が広がっていることが、学校復帰へとつながっている。 当事業では全てのこどもが学びにアクセスできる環境を整え、不登校児童生徒のうち、相談や指導まで進めることができていない（直接児童生徒にコンタクトできていない状態）割合を０にすることが重要だと考えるためR7年度以降の指標を変更する。
実績からR07年度の事業の方向性	・不登校児童生徒及びその保護者が一人で悩みを抱え込まず、前向きに生活することができるよう、また、不登校児童生徒を含むすべての児童生徒が学びにアクセスできるよう、不登校の状況に最も適した居場所の選択や保護者の相談窓口等の情報提供に資するリーフレットを作成・配付する。 ・現在、みのかも文化の森及び加茂野交流センターに校外教育支援センターを設置しているが、市内の東部や北部地区の児童生徒にとっては、保護者の送迎の負担も大きく、希望しても実際の通室まで進めることができていない現状がある。したがって、地域バランス、居場所に求める要素を踏まえ、新たな校外教育支援センターを設置する。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課			
大事業	B1	６つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02 事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	ＫＰＩ	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合		目標値	①500人 ②40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援						
小事業	11	情報教育推進事業		目標年度	令和6年度				

インプット

事業実施の背景にある課題	誰にとっても，職業生活，学校での学習，家庭生活など，あらゆる活動において，コンピュータなどの情報機器やサービスと、それらによってもたらされる情報とを適切に選択・活用して問題を解決していくことが不可欠な社会が到来しつつある。美濃加茂市の児童生徒においても、この情報社会の中で心身ともに健やかに生きる力を身に付ける必要があり、学校現場では、校務支援・授業改革・情報セキュリティー向上など校務の効率化を推進する必要がある。
対　象	市内小中学校の児童生徒及び教職員
目　的	・児童生徒が情報リテラシーを身に付けるとともに情報社会の中で心身ともに健やかに生きる力を身に付ける。 ・校務支援・授業改革・情報セキュリティー向上を図るとともに校務の効率化を推進する。
概　要	本事業は、フロム０歳プラン２の３本柱の一つである「学校の改革・改善」分野で情報機器やソフトウエアを選定・配置し，情報機器を用いた授業を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を高めることがねらいである。 ・文部科学省が推進するGIGA構想によって一人一台端末が整備され、また通信の高速化によって可能となった日常的なICT教育の中で「わかる・できる・楽しい授業」づくりを推進する。 ・ICT教育を推進する上で必要なデジタル教材およびソフトウエアの充実を図る。 ・プログラミング教育教材を整備して小学校プログラミング教育を推進する。

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	393,149	44,437	49,794	63,155	433,631
	決算額	389,567	44,228	48,327	60,569	431,148
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		670 / 1,794				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
ICT活用にかかわる研修への教職員の参加率%	目標値	85	87	89	90	92
	実績値	85	100	100	90	100

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
児童生徒がタブレットを使って毎日学習する活用頻度の割合（%）	目標値		50	50	50	50
	実績値		23	36	47	37

実績

実　績	・校務PCの更新 ・統合型校務支援システム「Te－Comp@ss」の購入 ・授業支援ソフト「SKYMENU Cloud」の購入 ・学習支援ソフト「ラインズeライブラリ」の購入 ・ICT支援（業者による）　市内小中学校６時間ずつ ・情報教育委員会の内容を各学校にて伝達 内容：授業支援・学習支援ソフトの活用の職員研修、授業用教材研究支援
効　果	教師が、教材研究・指導の準備・評価・校務などにＩＣＴを活用したり、授業にＩＣＴを活用して指導したりする能力も高まっており、児童生徒の活用につながっている。今後は効果的な活用法について検討していきたい。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	ICTに活用指導力向上に係る研修への教職員の参加率は、100%である。ICTの活用について、新しい機能の使い方を覚え、それを児童に還元するためには、繰り返し研修を行う必要がある。 R7以降のKPIを変更することに伴い、活動指標を変更する。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	児童生徒がタブレットを使って毎日学習する活用頻度の割合は、目標値を下回っている。授業内容においてその時間に必要なツールとして該当しなかったことや、効果的な使用がなされていなかったことが挙げられる。また、家庭に持ち帰り、家庭学習として使用する頻度が少なかったことも原因としてあげられる。今後は、これまでの実践とICTを組合わせ活用し、指導できる研修等を位置づけ、学校現場で生かしていきたい。 GIGAスクール構想の下、児童生徒のICT活用に関する適切な指導・支援には、教職員の校務効率化及び児童の学習・生活改善を図るICT活用指導力の向上を目指す必要があるため、R7以降のKPIを変更する。
実績からR07年度の事業の方向性	タブレット端末をWindowsからｉＰａｄへ変更した。操作性が向上したことにより、一層の利用を期待している。特に学習支援ソフト「eライブラリ」を活用した個別最適な学びの充実や、授業支援ソフト「スカイメニュー」「ロイロノート」を活用した協同的な学びの充実を図っていく。また授業だけでなく、学校生活全体及び家庭におけるデジタルシティズンシップ教育の推進に努めていきたい。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課

大事業	B1	６つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	ＫＰＩ	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合		目標値	①500人 ②40.0%
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援					
小事業	12	豊かな体験推進事業		目標年度	令和6年度			

インプット

事業実施の背景にある課題	美濃加茂市では、他市からの転入児童生徒が多く、本市の特長について十分に理解していない児童生徒もいる。またメディアを通じて多くの情報を視覚的に得ることができる時代だが、未知の体験への抵抗感や、必要諸経費の問題等から、実際に体験する機会をもてない児童生徒も多い状況である。 さらに、動物や生きものに触れる機会については家庭環境や成育歴によって二極化しており、動物に触れた経験がほとんどない児童生徒も少なからず存在する。
対　象	各小中学校児童生徒
目　的	普段、学校の授業では体験できない体験活動や専門家からの話を聞いたり、自他の生命の尊重について考えたりする機会を設けることにより、夢や志を育む。 また、児童生徒のプログラミング能力、環境学習への意欲・関心の向上、コミュニケーション能力や自己解決能力の向上を図るとともに、ふるさとへの誇りや愛着を培う。
概　要	本事業は「フロム0歳プラン２」の具現に向けて、令和の日本型学校教育の構築を踏まえた指導の充実のもと、「情報教育の充実」「自然や科学等の体験活動の充実」に向けた体験学習等を意図的に行い、自己の個性や可能性を伸ばしながら自己実現を図るためのものである。 ・自然やいきものとのふれあい授業 ・ICTを活用した体験講座

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額				1,094	6,275
	決算額				914	5,046
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		44 / 24				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
募集に対する参加者の割合（%）	目標値				100	100
	実績値				88	88

アウトカム

ＫＰＩ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
興味関心が高まり、参加してよかったと回答した参加者の割合（%）	目標値				80	80
	実績値				86	94

実績

実　績	・プログラミング講座を実施し、６３名（小学生５１名、中学生１２名）が参加した。 ・ヤギさんふれあい授業を、小学校６校で実施した。 ・ふるさと木曽川を感じる体験研修を市内の全小学校（９校）で実施し、５７３名（児童５３６名引率３７名）が参加した。
効　果	美濃加茂の自然・文化資源等に触れて学ぶ体験活動を充実させることで、児童生徒の主体的に取り組む姿勢や豊かな人間性を育むとともに、本市の特長を再発見することができた。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	豊かな体験活動として設置している３つのプログラムのうち、「プログラミング講座」は参加希望制である。本プログラムに対し、定員（72名）を超える応募者（88名）があったため、抽選により対象者を決定した。しかしながら、様々な理由により当日参加者（63名）が減少したため、実績値が目標値に達しなかった。 KPI変更に伴い、子ども達の気づきや感動を大切にした体験活動を、安定的に提供しなければならないため、R7以降の活動指標を変更する。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	本事業によって、子ども達が美濃加茂市の自然・歴史・伝統・文化に触れ、興味関心を高める姿や、仲間と必然的な協働の中で一人一人が主体的に関わり、生き生きと活動する姿から、学校職員が美濃加茂市の教育資源・学習環境を積極的に活用していると感じていると考えられる。 本事業は、学校外の教育資源を最大限に活用したリアルな体験活動を提供する事業である。体験活動は、子ども達が自己の新たな可能性に気付き、自己肯定感を高めることができる活動と認識している。こうした自己の可能性への気づきや、自己肯定感が、新たな「挑戦」への意欲を高めると考える。したがって、R7年度以降のKPIを「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合（%）」とする。
実績からR07年度の事業の方向性	令和６年度から始まった「ふるさと木曽川を感じる体験研修」をはじめ、ヤギさんふれあい授業」「わくわくドキドキプログラミング体験広場」は第３次教育振興基本計画の柱であり、子ども達に身に付けてほしい資質能力である「自立力」「共生力」「挑戦力」に繋がる「体験を伴う学習」である。今後も美濃加茂市と子ども達のつながりを強くする「ふるさとのよさ」を味わうことができ、子ども達が興味関心もてる事業の展開をするために情報を収集し、研究する必要がある。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課

大事業	B1	６つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02 事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	ＫＰＩ	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合		目標値	①500人 ②40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援						
小事業	13	地域クラブ活動推進事業		目標年度	令和6年度				

インプット

事業実施の背景にある課題	学校が担っている休日の部活動を地域で担っていくよう地域移行を進めていく上で、子ども達の指導にあたる指導者の確保が課題となっている。
対　象	市内中学生（保護者クラブ）
目　的	保護者クラブに対し、運営を補助する支援金（指導者への報酬等）を負担することで、継続的に安定した地域スポーツ（文化）事業を目指す。
概　要	中学生等のスポーツ（文化）環境について、地域単位での活動に積極的に変えていくことにより、子ども達が将来にわたりスポーツ（文化）活動に継続して親しむ機会を確保する。 ・活動の受け皿づくり ・指導者の確保 ・指導者への謝金（報酬） ・活動場所の確保

事　業　費　(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額				4,686	7,314
	決算額				4,022	4,203
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)		150 / 50				

アウトプット

活　動　指　標　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
指導者募集について広報を行った回数（回）	目標値				2	2
	実績値				2	2

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
部活動が地域移行した割合（%）	目標値				30	60
	実績値				39	54

実績

実　績	美濃加茂市中学校保護者クラブ認定団体 西中学校１０団体（１８団体中） 東中学校１１団体（２１団体中） 外部指導者募集２回実施、講習会４回実施
効　果	保護者クラブにて活動する団体に補助金（指導者報酬、指導者保険代、生徒保険代等）を交付することで、地域移行する団体が増えた。指導者講習会を計画的に実施することで、保護者クラブの指導者が増え、保護者クラブでの活動を推進することができた。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	確実に指導者講習会の案内を行うことができたため。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	令和５年度に１５団体が認定を受け、令和６年度から新たに６団体が認定を受けており、目標値には至らないが、順調に割合が増加している。
実績からR07年度の事業の方向性	「みのかもネクサス」構想の下、現在の部活動（保護者クラブ）を軸とした「中学生クラブ」と、市の方針に賛同する団体（スポーツ系・文化系）に中学生が参加する「市民クラブ」の両輪で移行を進めている。校長や教職員、保護者に対して丁寧に説明し、理解と協力を得るとともに、一方で関係課と連携を図りながら、順に移行率を高めていく。

令和６年度　事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課

大事業	C1	６つのまちづくり宣言	多文化共生	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	みんなで一歩を踏み出そう！	ＫＰＩ	①外国人市民の高校進学率 ②多文化共生のまちづくりが進んでいると感じる人の割合		目標値	①97.6% ②50.0%
中事業	02	主要な取り組み	外国人児童生徒の教育支援					
小事業	03	のぞみ教室推進事業（定住）		目標年度	令和6年度			

インプット

事業実施の背景にある課題	外国人児童生徒が日本語や日本文化などがほとんど理解できないまま小中学校に通うことで、学校に適応することが難しく不就学につながる状況にあった。 そのため、外国人児童生徒の増加に伴う圏域小中学校の受け入れ体制の整備および、初期適応指導教室「のぞみ教室」を開設し、初期指導及び日本語指導の充実を図ってきた。 ・外国人児童生徒の増加 ・外国人の定住化、散在化
対　象	日本語がほとんど理解できない学齢期の外国人児童生徒
目　的	・日本の学校生活へスムーズに適応できるようするため。 ・学校生活に必要な日本語や日本の文化を学ぶため。 ・サバイバル日本語を習得し、基礎的・基本的な学力を身に付けるため。
概　要	本事業は、フロム0歳プラン２の「学校が楽しい！」具現に向けて、外国籍児童生徒が小中学校生活に適応し、充実した日々が送れるよう初期適応指導等を実施するものである。 ・市内小中学校への就学を希望する日本語の理解が不十分な児童生徒に対して、日本語や日本の文化、学校生活の基礎について教える。 ・児童生徒が、日本語を身に付け、小中学校に適応することができるように、初期適応指導教室「のぞみ教室」で指導する。

事　業　費　（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	10,318	5,004	5,004	7,955	8,231
	決算額	9,094	4,874	4,833	7,387	7,484
年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）		1,725 / 836				

アウトプット

活　動　指　標　（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
日常生活に必要な日本語の習得や日本の学校のルールやマナーを身に付けるための授業実施日数	目標値					200
	実績値					206

アウトカム

Ｋ　Ｐ　Ｉ　（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
のぞみ教室に在籍した児童生徒が小学校・中学校に就学後、年度末まで在籍した割合（帰国・転校を除く）	目標値		90	90	90	90
	実績値		100	100	100	100

実績

実　績	・令和６年度は８６名の児童生徒が利用した。内訳は以下の通りである。 美濃加茂市民 ・フィリピン４９名、ブラジル１８名、日本７名、パキスタン３名、スリランカ２名、ベトナム２名、中国１名、ボリビア１名 川辺町民 ・トルコ３名
効　果	日本語がほとんど理解できない学齢期の外国人児童生徒が、のぞみ教室に通室することで、 ・日本の学校生活へスムーズに適応できた児童生徒が多くいた。 ・サバイバル日本語を習得ができ、基礎的・基本的な学力を身に付けることができた。

評価分析

活動指標分析 ※目標値の達成・未達成要因	年間予定授業日数通り、開室することができた。今後もカリキュラムにそって、計画的・継続的に授業や生活支援を行っていく。 【のぞみ教室を退室した児童生徒の意見】 のぞみ教室の先生の指導が厳しいと思うこともあったけど、九九をしっかり覚えることができて、算数の授業で困らなかった。先生に感謝している。
ＫＰＩ分析 ※目標値の達成・未達成要因	在籍学校での支援は言うまでもないが、在籍学校へ戻った時の困り感が児童生徒に少ないことが理由にあげられる。それは、のぞみ教室でのサバイバル日本語を習得させる指導や、日本の学校の文化や生活のルールが身に付くように繰り返し行う指導が大きな要因だと考える。 【のぞみ教室を退室した児童生徒を受け入れた学校の教員の意見】 日本語力が十分でなかったので１年生からのぞみ教室に通った。３ヶ月で卒室して在籍校へ通い始めたが、日本語ができるとして4月から学校に通っている外国人の子より日本語理解や計算や文字の基礎学力が身についていて驚いた。
実績からR07年度の事業の方向性	・令和７年度も継続して、のぞみ教室に通う児童生徒が在籍校へ通学するために必要な基本的な学校生活の習慣を身に付けたり、基礎的な日本語・計算ができたりするように指導していく。 ・のぞみ教室への通級申し込みの際、教育委員会担当者で保護者の願いをヒアリングし、のぞみ教室でできることやできないことを説明していく。